

診 断 書

住所 _____

氏名 _____ 生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 性別 男・女

上記の者は平成・令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日現在、以下の状態であることを認めます。
令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

医療機関所在地 _____

医療機関名 _____

医師氏名 _____ (印)

1 傷病に関する状況

診断名

特記事項

(_____)

2 心身の状況

障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）※

A 1 A 2 B 1 B 2 C 1 C 2

臥床期間 6 か月未満
 6 か月以上

認知症高齢者の日常生活自立度※

II a II b III a III b IV M

※介護保険の主治医意見書と同基準

特記事項

(_____)

3 総合判定

日常生活において介護が必要な状況である。

要介護 1～2 相当 要介護 3～5 相当

特記事項

(_____)

障害者控除対象者認定申請用診断書作成の手引き

1 診断書が必要な方

青梅市に住所がある65歳以上の高齢者の方で、障害者控除対象者認定の基準日現在で要介護認定を受けていない方

2 認定の基準日

対象年の12月31日（または死亡日）を基準に認定します。

3 記入方法

診断書は、基準日現在の状況で記入してください。診断日は、基準日以降の日付で記入してください。

1 傷病に関する状況

現在治療中の傷病のほか、既往症を併せて記入してください。

2 心身に関する状況

該当する区分にチェックをしてください。区分の詳細は、裏面を参照してください。障害高齢者の日常生活自立度がA1～C2または認知症高齢者の日常生活自立度がIIa～Mに該当しない場合、チェックは不要です。

障害高齢者の日常生活自立度と認知症高齢者の日常生活自立度が両方該当しない場合は、障害者控除対象者として認定されませんので診断書の提出は不要です。

3 総合判定

介護保険の要介護度で判断し、該当する区分にチェックをしてください。

4 費用負担

診断書の作成に当たって発生する費用については、本人または家族等に請求してください。

5 問い合わせ先

青梅市健康福祉部高齢者支援課いきいき高齢者係

電話番号0428-22-1111（内線2157・2158）

(参考)

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

状態	ランク	判定基準	
生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	
		J1	交通機関等を利用して外出する
		J2	隣近所へなら外出する
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない	
		A1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する
		A2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ	
		B1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う
		B2	介助により車いすに移乗する
	C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する	
		C1	自力で寝返りをうつ
C2	自力で寝返りもうたない		

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にはほぼ自立している	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	
	II a	家庭外で上記の状態が見られる (たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等)
	II b	家庭内でも上記の状態が見られる (服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等)
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	III a	日中を中心として上記の状態が見られる (着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等)
	III b	夜間を中心として上記の状態が見られる (症状、行動はIII aに同じ)
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする (症状、行動は上記IIIに同じ)	
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする (せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する周辺症状が継続する状態等)	